

花咲き山

令和3年度
飯豊町立飯豊中学校
第2学年だより
第38号
2021.12.10
文責：小松正義

西置賜地区「社会を明るくする運動」
作文コンクール 3名入選 おめでとう

優秀賞 渡部 煌星さん（2組）

奨励賞 宇山つばきさん（1組）

努力賞 遠藤 佳帆さん（1組）

生徒会役員選挙を通して

☆当選おめでとう

生徒会長	渡部 奏さん	生活委員長	鈴木 知帆さん
副会長（男子）	嶋貫 湧さん	学芸委員長	長岡和佳葉さん
副会長（女子）	佐藤 澄怜さん	広報委員長	梅津 匠杜さん
議長	本間 庵里さん	保健委員長	木村 瑠里さん
副議長	鈴木 暖さん	体育委員長	中村 俊介さん
事務局長	五島 美怜さん	整美委員長	遠藤 冬生さん
		給食委員長	江連 靖斗さん
		ボランティア委員長	安部 悠希さん

今回の生徒会役員選挙を通して多くのことを学びました。1番嬉しかったことは、候補者全員が自分の意思で立候補を表明してくれたことです。対立候補もあり結果として落選してしまった人もいましたが、飯豊中生徒会のために立ち上がったことそのものに価値があると思います。その意欲や勇気に対して学年全体でも何度か確認してきました。

逆にリーダーになるということの重みについては、受け止めきれない状況が学年全体にあり、選挙活動期間中に考えなければいけない場面もありました。

・他の手本となるような行動（あいさつ・礼儀・所作など）

・状況を見て判断すること、自分の立場をわきまえた行動や言動 など

みんなの前に立ち、信頼してもらうための責任の重さを、これからも忘れてほしくありません。

当選者は学年の代表です。他の人より自分の立場をしっかりとわきまえた行動が必要になりますが、2年生全員がこれからの飯豊中のリーダーになります。57名全員が当事者となって引っ張っていく必要があります。これからの学年の活躍に期待しつつ、子ども達のさらなる成長を見守ってください。

日本の笑顔

渡部 煌星

僕達が住む日本では、連日暗いニュースばかりが飛びかっている。学校から帰りリモコンを手に持ち、テレビの前に座るとまた同じような不快なニュースがどのテレビ局も報道している。このまま犯罪やいじめがある日本でいいのだろうか。

以前僕が小学校にいた時、ある一人の生徒の陰口が僕の耳に入ってきた。「最近あいつ調子にのってるよね。もう無視しよう」と話していたのだ。その時は周りに誰もいなく僕は注意しようとしたが勇気がなく見て見ぬふりをしてしまった。次の日も、悪口は聞こえてきた。さらにエスカレートして「うざい」や「きもい」などと不快な言葉が聞こえた。僕はこの言葉を聞いて「本人がその場にはいないから、周りに本人がいないからといって、そのような理由で軽く口に出していいのかと思った。しかし、自分も聞いているのに通り過ぎてしまった。家に帰った時は、自分が自分でおかした過ちが悔しく、その場から一步も動けなくなった。自分が、見て見ぬふりをして通り過ぎていったことがゆるせなかった。本当は、悪口を言っている人達に、「発言する前に一度考えてから、言ったほうがいいんじゃない」と言いたかったのに、それを言ったら、自分もいじめられるのではないかと怖くて、言えなかった。でも、苦しい思いをしている人がいると思うと、自分も助けてあげたいという思いもあって葛藤していた。

最近、気になる記事を見つけた。北海道旭川市内の、当時中学2年生の遺体が見つかったというものだ。記事によると2019年ごろからいじめを受けていて、6月ごろには川に自分から飛び込んでいた。しかし、学校側へ相談したものの、適切な対応はとられないまま、吹雪の中家を出て凍死したということだ。そしてもう1つ文部科学省が調査に乗り出した事例として、滝川市のいじめ自殺事件がある。訴訟にまで発展したが、結果的に和解となった。滝川市の自殺事件とはどんなものだったのか。旭川市のいじめ凍死事件と共通していることは、いじめを受けた生徒が亡くなっているという点だ。いじめたいが誰かを苦しめたり、苦しんだ人がここから逃げたいと思ってしまうこともある。

（裏面に続く）

周りの人や家族に相談せず、自分だけでかかえこむと、最終的に自殺につながる人もいます。このような現状がある中で、見て見ぬふりをしている人、実際にいじめをしてしまっている人はどのようにすればいいのか。深く考えて行動してほしい。すでに起きてしまったことをまた起きないように、この行動をすれば後にどうなるかを考えて動くことが大切だと僕は思う。しかし、僕が行動しても他の人がやらなければ意味がない。自分や今の現状を知っている人が周りの人に教えていかなければ、このいじめは絶えることがない。みんなが気を付けていれば、いじめを防ぐことができるかもしれない。僕は実際見てしまったら、いじめている人に注意をする。もし、聞いてくれなかったら、大人や学校に相談したいと思う。自分のたった一つの行動で、みんなの思いが変わり、いじめを減らしていけると思う。そして、周りのいじめを、全員でなくしていきたいと思う。

僕は今の現状を通して、同じ苦しい思いをしている人が一人でも多くいなくなるように、周りの人達に教えていきたい。しかし僕一人だけでは限界があるので、もっともっと他の人にいじめのことを知ってもらえる機会を作っていきたい。いじめは、やられた人が嫌だと思ったらいじめになる。いじめを減らしていく例として、行動では、言葉にする前に、一度考えてから話す。相手が嬉しくなるような行動をする。態度では、周りにいる人や一緒の空間にいる人に勘違いされないように誰にでも優しく、そして明るく接することがいじめを減らせる一つの方法だと思う。他の人へ優しく接してあげることで、一つでも多くの笑顔の環境が作られると思う。

自分の実際の行動を悔やみ、どのようにしていけば良かったのかをしっかりと考えています。またニュースにも関心を持ち自分事としてとらえようとする姿勢も良いですね。勇気のいる行動ですが、学年全体が煌星くんのような思いで過ごして行ければ、「私たちの学年にはいじめはない」と、胸を張って言える日が来るのではないのでしょうか。煌星くんの作文から、多くを学びたいものです。

